

西南学院大学 図書館報

図書館での思い出……森下玲子以下4名	2～3
新社会人への読書のすすめ……糸園辰雄	4
気楽に読める専門書〈6〉……尾上修悟	5
講習会参加レポート……大羽康二・立石 肇	6
図書館の思い出・刀根次長のご退職に思う	
……刀根 淳・今永義純	7
お知らせ・報告……	8



心の中の時間

文学部教授 八 田 正 光

西ドイツの児童文学作家ミヒャエル・エンデの「モモ」(太島かおり訳、岩波書店)を先日読んだ。童話と
思い軽い気持ちで読んでいくうち、その平易な文
体の内奥、その展開に心がひきつけられた。

すでに読まれた人も多いと思う。背が低く瘦
せて、真黒なまき毛、真黒な大きな目をした少
女モモが大都会のはずれ円形劇場廃墟に住みつ
く。近くに住む人たちはモモに話を聞いてもら
っているとまともな考えが浮び、自分の間違い
がわかり、自分の意志がはっきりし、勇気や希
望、明るさがわいてくる。ところが、頭の頂き
から足先まで服も顔も灰色をした男たちが大都
会に侵入する。彼らは灰色のかばんをもち、灰
色の葉巻をふかしながら音もなく人目につか
ずに攻めこみ深く食い入る。灰色の男たちは時
間の秘密を知っている。彼らは時間の儉約と貯
蓄を説き、「時間節約こそ幸福への道」「きみの生
活をゆたかにする」と訴える。しかし、それに
従えば従うほど人びとは不機嫌な、くたびれた、
怒りっぽい顔ととげとげしい目つきになる。灰
色の男と共にいる所には冷気が漂う。人びとは
時間を節約しながら大切なものを失ない、時間
を浪費していく。

灰色の紳士たちの正体を見破ったモモは、人
びとに警告を与える。「あらゆる方法でたえず時
間を儉約するようになってきたんだが、それな
のに時間はますます少なくなっている。……こ
の儉約した時間は、人間からうばわれてしまっ

ているんだ。」モモと灰色の紳士たちとの闘争が
はじまる。モモは孤立した苦闘の中で、「時」の
使者カメに助けられて時間の国に着く。マイス
ター・ホラはモモに灰色の紳士たちの正体を教
える——彼らの「灰色」は死んだものでもって
生命をつないでいるゆえで、彼らは人間の時間
を盗んで生き、灰色の葉巻の煙で時間に毒を流
し込んでいる。「人間というものは、ひとりひと
りがそれぞれ自分の時間を持っている。そして
この時間は、本当に自分のものである間だけ、
生きた時間でいられる。」

灰色の紳士たちを打ち負かしたモモによって、
大都会に再び以前の潤いが甦る。この物語の話
者は結末部分において、このお話は「過去に起
ったことのように」話したが、「将来起こること
として」話してもよかったと語る。

この童話は物質主義的豊かさと便利さの中で
時間を節約しながら、時間を浪費している現代
人に対する警告である。「人間には時間を感じと
るために心というものがある」「時間とはすなわ
ち生活」(原文はZeit ist Leben.「時間とはいのち」)
である。卒業生諸君は社会人となって時間に追
われる生活が始まる。時間を節約、儉約しよう
と焦り、かえって時間を浪費することのないよ
う、「人間の心のうちの時間」「人間が人間らしく
生きることを可能にする時間」を大切に。そし
て読書する時を浪費しないようにと願う。

(やつだ まさみつ：基督教学・西洋古典思想)



文学部英文学科4年

森 下 玲 子

大学に入って図書館をうまく利用するためには、まず図書館の機能を学生の立場から把握することが大切ではないでしょうか。私は入学したての頃、図書館を知るためという意味もこめてよく館内の書棚の間を歩きまわりました。これによって館内のどの辺にどんな種類の本があるかがわかり、歴史研究会での研究や、授業に必要な文献を探すのに随分役立ちました。また、数えきれない程の本の山を前にして、学問に対する尽きぬ情熱を駆り立てられ、在学中に一冊でも多くの本を読もうと決心したものです。

図書館には目に見える本以外にも、閉架図書として沢山の本が用意されています。より多くの資料が欲しい場合、私は3階に行き、「どうしてここだけ冷暖房が効かないのかしら」と一人で文句を言いながら、図書カードを一枚一枚めくって目的の本を探しました。

けれども卒業を目前にした今、自分が読んだ本の数の少なさにただただ後悔の念が残るばかりです。ですから卒業後も図書館をできるだけ利用して、自分自身を磨いていきたいと思っています。

新入生のみなさんには、これからたくさんの時間があります。どうかその時間の一部を図書館で過ごし、大学生活を有意義なものにして下さい。

(もりした れいこ)

商学部商学科4年

今 井 豊

風はやさしげに木の葉に生命をふきこみ、わずか5cm程開けていた図書室の窓のすきまから、迷い込んだ風が、タイミングよく本のページをめくった。百年も昔に書かれた物語によって、生命をふきこまれ、心が研ぎ澄まされる思いだ。

僕はひとけの無い、シーズンオフの図書館が好きだ。昼から夕方と呼ばれる時間にうつる頃のやわらかな日差しの中で、書物に刻まれた魂の荘厳な響きに耳を澄ます。書架にならべられた書物は、顔にわずか一行の自己主張を記しただけで黙り込んだままだ。誰かがページをめくり、饒舌に話しかける機会が来るのを待っている。

試験期間中、勉強に利用される熱気につつまれた図書館に魅力を感じない。人々の喧噪の中に、「単位を下さい。」のひと言を聞いてしまうからだ。自分もその中のひとりなのに、自らを恥じもせず、他人の姿を嘲けわらい、ひどい自己嫌悪に陥る。だから、自らの可能性を勉強の中に問いかけ、真摯に取り組む後ろ姿に、救われたような気持ちになる。

時に激しく叱咤し、時にやさしくなだめ、生命の歓喜を唄ってくれた書物は、僕に人生を求め続けなくてはならないことを教えてくれた。縁あって出会えたことに感謝している。

(いまい ゆたか)

経済学部経済学科4年

江川 裕美子

一、入学してすぐ。ビル一棟を占領する図書館があるという事にすごく驚いた。二、もっとも中に入って何となく読める本が少ないのにも驚いた。(やはり高校の図書館と同じ訳にはいかなかった。) 三、一年の前期試験の時。図書館の開館を待つ人達と、その人達のねばり方に少々あきれたものだった。四、学校に慣れてから。レポートを書く合間に戦前の本を見つけて感動したり、経済学部の専門書と同じ階にある児教の本を読みふけているうちに、時間が過ぎて何しにきたのかわからなくなった事もたびたび。その度ごとに図書館で夜遅くまで本当に一生懸命に勉強している人達の姿と比べ、自分のなさけなさに恥じ入ったものだった。それから又(私事で失礼だが)、友人から私によく似てると評判の職員のお姉さんに会うのも、図書館にいく楽しみのひとつだった。

…と、いうわけで平均的な学生生活を送った私にも図書館の思い出は多々ある(返却期限を忘れて10円とられた事も含めて)。勉強する時のみならず、暇な時に行って隅から隅まで歩き回れば、意外な面白い本が、きっと見つかると思う。試験の時だけ通うのはもったいない。

そして最後に。職員の皆さん、これからもうぞ、よりよい図書館をめざして頑張ってください。
(えがわ ゆみこ)

法学部法律学科4年

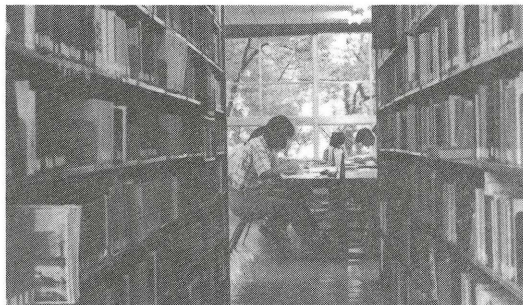
江頭 研一

朝の図書館は臭い。数多くの本と部屋のおいさがブレンドされたような感じだ。その臭気を胸いっぱい吸うことで私の図書館での一日は始まる。

座り易い椅子を見つけて腰をかけると、朝のラッシュで乱れていた私の心は落ちつく。午前中は私の頭は調子がいい。入館票に日付を書くことで月日の移ろいを感じながら専門書を開くと、昨日わからなくてマークしたところが今日は、わかるような気がする。

午後、図書館の机に向かっていると、一時間もしないうちに眠気に襲われる。しかたがないので、うつ伏せになり、睡魔の去るのを待つことにする。目が覚めても、頭が覚めないで、トイレで顔を洗ってから、さあ、もうひとがんばりと気合いを入れたこともある。

夜の図書館は、ほんとうに静かだ。窓から外を見ると、西新の上空の白く光っている中に吸い込まれそうで、夢でも見ているような気分になる。こんな時刻までいることは、めったにない。今日は本稿の「思い出」をひねり出そうとしたのだが、特別の「思い出」は出てこなかった。私には、図書館でのことを含めて、この四年間は夢の中で過ぎたことのようにも思われる。西新の空も同じ夢を二度は見せてくれそうになり。
(えがしら けんいち)



新社会人への読書のすすめ

商学部教授 糸 園 辰 雄

卒業おめでとう。

皆さんは今、ある種の完成感で喜んでいると思うが、一方これからその一員となる実社会にどう対応していけばいいのかと期待半分、未知の不安半分という人が多いだろうと思う。

しかし案ずることはない。皆さんを「役立つ人」に仕立てあげねばならないのは採用した側の事業所であり、皆さんも「役立つ人」になりたい切実な願いを持っているから両者の願望は見事に一致するためである。夫々の勤務する事業所内教育の第一歩、研修に真剣に取り組んで実務知識を身につけ、日常業務をこなす能力を身につけて貰いたいものである。

さて、研修を終え、半人前ながら実務に就く頃になると、たいていの人は、自分のやっていく仕事、一体どういう社会的意義をもつのか、その客観的な位置はどこにあるかが気になってくる。気にならない人もいるが、これは余程おめでたいのか、他のことで紛らしている場合が多い。

人によって程度の差はあるが、このような気がかりを解いてくれるのは夫々の分野に必ずある、先輩の書いた良い本である。

私ごとに触れて申し訳ないが、大学を出て日本銀行に入ってからすぐに軍隊の3年、戻って来て先ず読んだのが、深井英五『回顧七十年』と滝沢直七『稿本日本金融史論』の2冊であった。それぞれの内容を話すとう理解が早いのだがそれはおき、効能だけ言うと、金融ということ、自らの属する銀行のその中での役割が判然としてき

て何やら道が開けて来たという感じで大いに安堵した。ようやく入口に立ったにすぎないが、座標軸を見出し、方向をつかめた思いであった。人間には五里霧中がもっともよくない。それぞれの分野で先輩はその書いた本によって各自のいる位置を、さらに辿るべき道さえも差し示してくれるのである。実務の必修文献を修得したうへは、ぜひ先輩の、こうした珠玉の遺産を読んでもらいたいものである。

スポーツやお酒も大いに楽しむがいい。人生を豊かに享受し、とくに青春の喜びを謳歌できるのは若い皆さんの特権である。

ただ人間は「考える葦」でもある。どこかサメているのが並みの人の姿である。それぞれの分野の勉強が一段落すると、自分の属している分野だけでなく、広く日本、いや世界を解く鍵を求めたいと思うであろう。「暗黒の月曜日」が即刻、世界を震撼させる時代であるからだ。

多様な人々の要求に一樣に答える「すべ」はないが、皆さんはその頃には行きつけの本屋を作り、週に一回位は訪ねて、じっくりと自分の願いを叶える本を選ぶといい。そうして皆さんは最後には生涯の愛読書、枕頭の書にも出会うこととなるであろう。

本は皆さんの生涯の夫々の時期に、必ずや皆さんのよき「助人(すけつと)」となろうし、よき師匠ともなるであろう。時に訪れるであろう失意の時には励ましの言葉さえ投げかけてくれるであろう。

(いとぞの たつお: 中小企業論・商学総論)

気楽に読める専門書 <6>

『ゼミナール 日本経済入門』

332
1
450

経済学部経済学科主任 尾 上 修 悟

『経済学はむずかしくない』（都留重人著、講談社、1964年、第1版）という本があります。その冒頭で著者は次のように指摘します。われわれの毎日の生活が経済と深く関係しているにもかかわらず、それが1つの学問分野として確立してしまうと、経済学は何かしら現実とはかけ離れた、はなはだむずかしいものと化してしまう、ということです。実際に、経済学を専門的に学ぼうとする諸君は、それが何ととりつきにくいものだと思うにちがいないでしょう。

では、経済学は数学のように、ほんとうに抽象度が高く、かつまた演繹的に仕上がったものかといえば、けっしてそうではありません。理論に示された有名な方程式や曲線のほとんどは、現実の世界から帰納的に導かれたにすぎないのです。だとすれば諸君はまず、現実の経済の動きを自分の眼でつぶさに追ってみる必要があるでしょう。今日ほど現実の経済がめまぐるしく変化し、それに伴って理論の修正が迫られているときにはありません。その点で諸君は、経済学を学ぶ絶好の機会を得ているといえます。しかも、現在、世界でもっとも注目されているのが日本の経済の動きであるわけです。そのことが、日本の経済力の著しい高まりに根ざしていることはいまでもありません。ですから諸君は、今日の日本経済の内容を知ることから出発すればよいのです。

幸に、日本経済に関する書物は枚挙にいとまがないほどたくさんあります。その中で手軽に読めるものとして、真先に、『ゼミナール 日本経済入門』（日本経済新聞社編、1985年、第1版）を挙げたいと思います。これは、経済学に縁のない一般の読者にも理解できるように書かれたもので、発売以来たちまちにベスト・セラーになったものです。総ページは、何と500ページを越えています。新書ばやりの今日、これはやや例外に属するものです。しかし驚くことはありません。本書が、日本経済と経済学に関する1つのハンド・ブックとしての役割を果たしているため、諸君は、興味に応じて、いわば辞書を引くかのように読むことができます。全体は、序章と終章を除くと10章から成り、それらは経済のあらゆる問題、すなわち、産業、経済成長、物価、財政、金融、貿易、国際金融、景気、ならびに経営を含んでいます。さらに特徴的なことは、各章が、日本経済の現実、歴史と理論、および統計の3つの部分に分かれて書かれている点です。したがって諸君は、それらを適宜選択しながら読み進めることができます。もちろん、それら3つを順次読むことで、総合的な理解度を高めることができます。こうした学習を積みながら、諸君がさらに、ある1つの経済問題を深く追究する機会を得られるようになることを願って止みません。

(おのえ しゅうご: 経済学部助教授・国際金融論)

講習会参加レポート

昭和62年度 九州地区著作権講習会に参加して

大羽 康二

この講習会は、著作権に関する一般の理解を深め、もって著作権思想の普及向上を図ることを目的とし、毎年、文化庁とその地方の教育委員会が主催して行なわれる。本年度は、昭和62年9月17、18日の両日、熊本の水前寺共済会館に於いて行なわれた。

講師として、文化庁の専門委員、協賛団体として、日本放送協会、日本レコード協会、日本音楽著作権協会、日本文芸著作権保護同盟、日本ビデオ協会等の団体が参加した。

講義は、著作権の体系、著作物の定義、権利の内容・制限・管理、保護期間など具体的な判例と解説が行なわれたが、多少著作権法とは利用者にとって面倒で厄介なものだという印象を

受けた。しかし、これからビデオソフト、CD、データベースなどニューメディアの出現によって、一層複雑化する著作権法を理解するには、大変なことだが、図書館員として違法行為だけは避けなければならない。

今後、図書館においても、CDやビデオなどの視聴覚教材が増し、館内、館外貸出しも増え、それに伴った対応が必要となる。

そのためにも、これらの業務に従事する者にはこのような講習会に積極的に参加させ、十分な理解のもとに業務を推進させねばならないと思った。

(おおば こうじ：整理課和漢書係)



なぜ 電算化？ —大学図書館職員講習会に参加して—

立石 肇

昨年12月に大阪大学附属図書館で開かれた文部省主催の大学図書館職員講習会に出席しました。4日間にわたる講習会の中では主に学情センターについての説明が行なわれ、やはり図書館の電算化が話題の中心となりました。以下、今回の講習会に出席して電算化について自分なりに思ったことをまとめてみます。

「電算化は大変だ!」という意見は参加者の多くが持っており、お金はかかるし、人手はかかるし本当に大変な改革だと考えているのです。実際に既に電算化を行なっている図書館の方の話を聞いても、機械の導入で余計人手がいるようになり、また業務体制の変化によってそれまでの業務がより煩雑になったというところもあるようで、しかも出来あがったシステムが有効に働かないという例などもあって、やはり電算化が多くの問題をかかえているのは事実のよう

です。ではなぜ電算化が必要なのでしょう？

時代は高度情報化社会へと進んでおり、文献情報を取り扱う図書館もとりまく社会環境の変化に対応するためには機械化を図る必要があります。またそれによって図書館利用者への迅速かつ有効なサービスの提供を考えなければならなくなっている。そこでどの図書館も機械の導入に対して積極的に取り組んでいるのです。現在までのところ、業務の省力化という面では機械に人手をとられるという点など課題も多く、うまく機械を活用できていませんが、まずは新しい形でサービスの提供を目標に図書館の電算化を進め、ニューメディア時代における図書館としての対応ができるように変身していかなければならないのだと考えます。

(たていし はじめ：整理課洋書係)

図書館の思い出

刀 根 淳

60歳を越えての退職ともなると、だいたい数十年のキャリアを誇り、職場に沢山の花を咲かせて（業績を残して）円満退職というのが相場のようなのだが、私の場合は事情が違う。まさに“老兵は去るのみ”といった感じで申し訳ない気がしてならない。

もともと大正生れであるからには、あの戦争にも直接参加したし、荒廃した戦後の企業でのつとめ、そして闘病生活。西南学院には齢すでに35の時であった。それから何度も休職。研究所を経て、創設期の文書課にいた。

そして図書館。昭和47年であった。その頃でも40数キロの弱体では、みなさんに迷惑をかけることが屢々であった。それから丁度16年。私にすれば長年月の勤務であった。それだけに思い出も多い。

昭和48年頃は、図書館の5階と全書庫は全く何もなくてガランドウであった。業務電算化のはしりである逐次刊行物の受入、管理がスタートしたのが昭和51年であった。そしてその翌年に夜間開館が実現し、定着してすでに10年を越え

たが、あの短期間での準備作業のあわただしかった当時は夢のようである。52年頃は、図書館にはまだ冷房がなく、夏の昼下りの日差しはきびしかった。そして図書館職員数が総勢30名に及んだ58年には、従来の一課より二課制が設けられた。16年の歳月での数々の改変を織りこんでの図書館の移り変わりを、今になって懐しく思い出す。

しかし無能で、頑固で、計画性に乏しい私には、徒らに年月だけが先行した感じで今日を迎えた。そして情報化時代に対応する大学図書館のあり方が問われている最中での図書館業務電算化の実現と、図書館増改築といった二大課題を目前にしての退職。特に昨春来の問題も含めて万感胸にせまる中で、いよいよお別れすることになった。

無力の私を支えていただいた今永課長、ありがとうございます。お世話になった図書館のみなさん、ありがとうございます。思い出の図書館、さようなら。

（とね じゅん：図書館事務次長）

刀根次長のご退職に思う

今 永 義 純

刀根次長、定年ご退職おめでとうございます。勤め人が定年を迎えられることは、健康で職務に精根を尽くして励んでこられた証拠で、誠におめでたいことだと思います。

昭和47年に図書館にこられ、すぐに5階の内装、書庫の増築と手がけられ、それに伴う資料の配置について当時の館長木村毅先生と熱心に検討をされていたことが思い出されます。52年には、全国の私立大学図書館においては、あまり例をみないような年間を通じての夜9時までの夜間開館を実現させた。時機を見てのその決

断と実行力には感心させられたものでした。また、58年には、情報化時代の新しい要請に応えるため、事務組織を従来の一課制から二課制に改変した。等々、功績を挙げたらきりがありません。

刀根次長は、組織は人なりとよく言われていて、組織の中における人の和を大事にし、職員に対しても常に細かい配慮をされていた。また館内研修を通じて、あるいは研修会、講習会等に参加させることにより、職員の能力開発に積極的に取り組まれた。

図書館は、時代の要請に応ずるべく幾多の難

問を抱えている。業務の電算化、増改築等、刀根次長去った後、これらの諸問題が解決できるかどうか不安がある。しかし、図書館は、今後も永遠に存在し続けてゆく。

次長の今後の末永いご健康とご多幸をお祈り

するのみである。永い間のお勤めご苦労さまでした。

(いまなが よしずみ：図書館情報サービス課長)

お知らせ

○春休み中の開館

2月6日(土)～4月9日(土)

9:00～21:00※この間、学習室は閉室。

○春休み長期貸出し

貸出期間

1月27日(水)～4月11日(月)

返却期限

4月22日(金)

(但し、卒業・修了予定者は2月末日)

対象および冊数

学部学生・専攻科生 5冊以内

留学生別科生 10冊以内

大学院生 20冊以内

○卒業後の図書館利用の手続き

本学の卒業生は、卒業後も図書館を利用できます。利用希望者は手続きに次のものが要ります。

①特別利用許可願(本館備付) 1通

②卒業(修了)証明書 1通

③証明書用写真(3cm×4cm) 1葉

④印鑑

⑤利用料金(1ヵ月) 100円

※入館、貸出し手続きは在学中と変わりませんが、貸出し冊数および期間は年間(休暇中を含め)を通じて3冊、11日以内です。なお、緊急に資料および調査が必要なときは閲覧係にご相談下さい。積極的な利用をお勧めします。

★ 報 告 ★

＜図書館委員会＞

62. 11. 17 ① 昭和63年度図書館予算の申請について

② 教育実習用の図書貸出し期間の延長について

③ ファックスの使用料について

62. 12. 14 ① 第3回九州EC研究会の開催について

② ファックスの使用料について

63. 2. 26 ① 昭和63年度私大助成の申請について

② 学術雑誌の新規購入について

＜研修・出張＞

○昭和62年度全国図書館大会

62. 10. 28～30 於：東京都

今永課長出席

○昭和62年度私立大学図書館協会西地区部会

九州地区協議会研究会

62. 11. 6 於：福岡ガーデンパレス

伊藤係長、杉野・品川・小嶋司書出席

○第10回図書館建築研修会

62. 11. 20、21 於：日本図書館協会

川島館長出席

○第8回大学図書館研究集会

62. 11. 25、26 於：大阪市立大学

伊藤係長出席

○第19回国連寄託図書館会議

62. 11. 26、27 於：京都市

小嶋司書出席

○昭和62年度大学図書館職員講習会

62. 12. 7～10 於：大阪大学

立石司書出席

○J—B I S C説明会

63. 2. 16 於：福岡市

田代課長補佐、杉野・大羽・品川司書、

瀧本・田中司書補出席

○昭和62年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会(福岡地区研究会)

63. 3. 3 於：福岡工業大学

川島館長、倉光・伊藤係長、杉野・坂口

品川司書出席

＜本学開催の研究会等＞

○第3回九州EC研究会

去る1月30日(土)に、本学の学術研究所において標記の研究会を開催した。服部彰氏(福岡大学)「最近の国際通貨制度改革案について」、松本勇氏(長崎県立国際経済大学)「EC包括的共通海運政策」の二つの研究報告が行われた。

なお、第4回の研究会は、7月2日(土)に予定されている。